

令和6年度 生活科実践・研究計画

部 員	○丹 理人、渡部 和朝
-----	-------------

研究テーマ
思いや願いをもって対象へ働きかけ、実感を伴いながら気づきの質を高めていく子どもを育む学び

1 研究テーマについて

昨年度までの実践で子どもたちは、自らの思いや願いをもちながら活動し、その実現に向けて、対象への働きかけをよりよくしながら多くの気づきを得てきた。しかしながら、これまでの「学びのものさし」を意識するあまり、活動に没頭することで得られる気づきが十分とは言えず、実感を伴いながら気づきの質を高めていく点については課題が残った。そのため、よりよい働きかけをしたという手応えや自分自身の成長の実感が生まれていないというのが現状である。

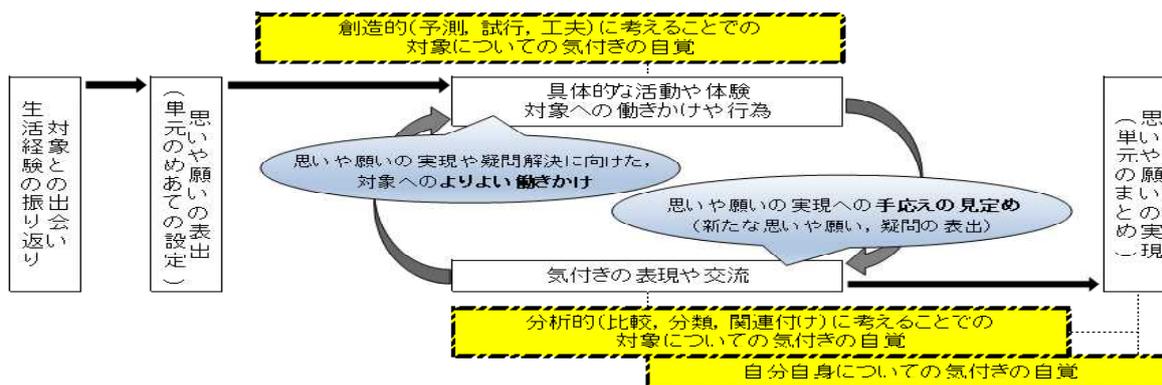
こうした現状を踏まえ、今年度は、体験活動と表現活動を相互に繰り返しながら、子どもが新たなことに気付いたり、自分の気づきを捉え直したりすることができるように学習を進めていくことで、実感を伴った気づきを促す。

そのためにはまず、子どもの思いが存分に生かされ、経験を積み重ねることで発展していくような活動を設定する。活動の中では、教師が子どもに行動の背景や工夫の理由を尋ねたり、活動の振り返りを促したりしながら、気づきを自覚化できるようにする。また、子ども同士で学び合う場面を設定し、互いの気づきを比べながら、相違や新たなことに気付くことができるようにする。さらに、他者からの価値付けにより、自分の成長や可能性などの気づきを得られるようにする。

本校生活科で育みたい力は、対象への働きかけと得られる反応や結果の関係を自覚し、働きかけをよりよいものへと更新していく力である。そこで、働きかけを更新しながら得られる実感の伴った気づきを生かし、思いや願いの実現を目指す姿を期待し、「思いや願いをもって対象への働きかけ、実感を伴いながら気づきの質を高めていく子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

生活科で目指す自律した子どもの姿

- ・ 分析的（比較、分類、関連付け）に考えることで、働きかけて得た手応えや抱いた思いや願いを自覚し、実現への手応えを見定める姿
- ・ 手応えを基に、創造的（予測、試行、工夫）に考えることで、働きかけと対象の反応や結果との関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく姿



図：生活科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点<〇は具体的な取組の例>

対象への働きかけをよりよいものへと更新し、気づきの質を高めるための手立て

- 実感を伴った気づきをもてるように、子どもの思いを生かし、経験を積み重ねることで発展していく単元構成について工夫する。
- 思いや願いを更新することでよりよい働きかけが生まれるように、教師の関わりや子ども同士の学び合いの支援を工夫する。